

長崎県・雲仙開拓（東原地区）

長崎県雲仙市瑞穂町の雲仙開拓（東原地区）は、島原半島の北部で、雲仙岳の北側山腹斜面に位置している。

標高は250～320^ト、地質は火山灰土でリン酸欠乏土となっている。雲仙岳を背に、有明海を臨む風光明媚な開拓地だ。

46年から翌47年にかけて、海外からの引き揚げ者を中心に20戸が入植した。

この東原地区はほぼ雑木林で、トウグワ一本の道具だけで木の根を掘り、開墾していった。雪が降れば布団が白くなるような小屋に住みながら苦闘を重ね、20戸が互いに励まし合い、時には競い合いながらの生活だった。

この土地は火山灰土ながら肥えていて、温暖な気候を生かした麦、バレイショ、サツマイモなど、各種野菜作りは比較的良好だった。

51～58年頃にかけて毎年のように台風などの自然災害が襲ったが、みんなで乗り越えてきた。

すでに戦前、外地で苦労してきた人たちなので、常に積極的な営農を取り入れ、10年目頃には将来のめどが立ち始めた。

61年以降の振興対策事業を契機として、経営を肉牛、酪農、養豚などの畜産業に転換する農家も出てきた。飼料作物も多くの収穫があり、酪農が栄えていった。また、長崎県開拓農協指導のもと、乳用種去勢牛肥育の開拓牛事業も行われた。

肥沃な土地でダイコン、キャベツ、バレイショなどの畑作や、ミカン、ナシなどの果樹、花木栽培も盛んに行われている。

入植20年目（66年）頃には住居や生活環境も一応整い、生活も安定してきた。また、30周年には「東原霊園」が造られ、この間に物故した父や母、兄弟たちの霊（他家に預けられていた）を弔うことができた。

77年には全体で肥育牛2500頭、乳牛200頭、バレイショや野菜などの畑地約40^ヘの専業農家集団となった。

91年には入植45周年を記念し、「開拓之碑」が建てられた（写真）。

驚くべきことに、現在でもほぼ全戸がこの地区で生活している。お互いに尊重し合いながら、自分たちで切り拓いてきた美しい故郷を守り続けている。

長崎県・雲仙開拓（東原地区）

- ①調査日 2017年1月24日
- ②所在 雲仙市瑞穂町西郷 東原コミュニティーセンター敷地内
- ③地区の沿革 島原半島北部に位置し、標高250～320米。昭和21年から翌22年にかけて20世帯の海外引き揚げ者が入植。この東原は雑木林で、トウグワ一本の道具だけで、木の根を掘り雨が降ればびしょぬれになり、雪が降れば布団の上に積もるような小屋に住みながら苦闘を重ね、20世帯の人が互に励まし合い、競い合いながら、麦のおかゆと、芋だけの食事で10年の生活を続けた。常に積極的な営農を取り入れ、10年目頃から将来のメドもたち始め、20年目ごろには住居も一応整い、安定した生活を得た。
- ④設置年月日
- ⑤設置者
- ⑥碑名 開拓碑
- ⑦碑文（表面） 開拓之碑
昭和二十一年この地に入植す。
何時の世にも語り伝えよ、
東原の野山拓きし、父母の若き日
歴代開拓組合長名 入植者氏名
- ⑧碑文（裏面） 無し
- ⑨現在の状況 地域内で管理されている。

